

UNITY IN THE
Body of Christ
EPHESIANS 4

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年7月30日発行 No.79

『柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。』
(エフェソの信徒への手紙 第4章2~4節)

<充実した学びと有意義な出会いを願いつつ…。海外研修・交換留学の壮行礼拝を挙行!!>

前期も終盤を迎えました。先週で授業が終わり、今週からのテストが終わればいよいよ夏休みですが、KIUではこの期間を使って短期留学（海外研修・海外語学研修・交換留学）にチャレンジする学生が多くいます。先週水曜日の夕方には、それらのプログラムに参加する学生をチャペルに招いて壮行礼拝が行われました!!

正直、チャペルに入ってきた学生の表情はお客様気分…というか、「海外旅行だ!!楽しみ!!」という少し軽い雰囲気の子が多かったです。祈りの言葉や決意表明そして何より下村学長のメッセージに込められた「研修」の意義を踏まえる時、学生の表情が責任を踏まえた精悍なものに変化して行くように感じられました。

世界のニュースを見ていると、多くの国々が格差と分断によって苦しんでいます。日本も例外ではありません。しかしそのような時代、そのような世界だからこそ、世界に飛び出し、異なる文化を体感する、上記の聖句にあるように、愛による内面的（霊的）一致を学ぶ事が、一人ひとりの学びを充実させるだけに留まらない、この小さな取り組みから世界平和が生まれるのだと信じます!! 研修に出られる皆さんの有意義な時をチャペルからお祈りしています!!



30名を超える学生が海外に



海外研修の意義を説く下村学長



魚住先生の問い掛けに雄々しく返事

<皆様のご協力に心から感謝!! 前期の昼礼拝データを通して見えてくるものは…?>

先週の金曜日で前期の昼礼拝が終了となりましたが、その詳細を整理してみて見えてきたデータがあります。前期の総礼拝回数は73回、礼拝出席者総数は1,954人（一日の平均出席者は26,7人）でした!! この数字は、お昼の礼拝にご出席下さった皆様のご協力あっての事と思い、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました!! 後期も様々なプログラムを用意し、昼礼拝を盛り上げていきたいと考えていますので、ぜひ覚えてご参加下さい!!



礼拝で心も体もスッキリ!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

7月23日（月）テーマ：「私は宇宙船『地球号』の乗組員」 石原 正彦（刊入教習部-主務）

例年にない記録的な酷暑が続く中、この昼礼拝の奨励では地球環境や自然に関する内容のものが多く見られるようになった。私の耳や目に入ってくるニュースでも原発の使用済み燃料の件などは、負債を先次の世代に先送りしているだけのように感じて心配になる。大きな目で見れば、私たちは「地球」という大きな船の中に生きる乗組員だ。皆の大切な土台であるこの地球をどうすれば守れるのか？ 私たちに何ができるだろうか？ 2つ掲げるとすれば「3R（Reduce・Reuse・Recycle）」の推進と、一人ひとりの声を政治に活かす選挙だと思う。皆の命に繋がる大きな変革のために、まず身近な所から取り組める小事を大切にしていきたい。

7月24日（火） ※この日は前期最後の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の演奏と、聖歌隊の歌声に耳と心を傾けました。
次回は、後期 10月9日（火）です!!



7月25日（水）テーマ：「勉学とは何か」

近藤 剛（経済学部）

今年度50周年を迎えるKIU、そこに赴任し10年以上が経過した。無情にも感じられる時の経過と共に自分の歩みを振り返れば不気味な恐ろしさを覚える。今日の聖句は「知恵が深まれば悩みも増す。知識が増せば痛みも増す。」という賢者コヘレトの言葉だ。「悩み」と訳された言葉の原意は「腹立ち」を示しており、勉学に付随する葛藤や誘惑、知識や知恵の持つ無限性に対する苛立ちを表す。これらを突き詰めれば「私たちは何故生きているのか？」という存在への問いに行き着く。コヘレトは言う、「全ては空しい」と。しかし私は空しいと分かりながらも生を引き受ける覚悟、むしろ人間の生は空しいけれど生きるに値するという矛盾、そしてその虚無を生き抜く為に悩みつつ学び続ける事にこそ勉学の本意があるのではないだろうか。

7月26日（木）テーマ：「ありもしない不安をアップデートされていませんか？」利川 満（管理運営部-）

銀座まるかん創設者である齊藤ひとりさんの言葉を紹介したい。「コップ一杯のお水とダイヤモンド、どちらに価値があるか？」日本人のほとんどの人はお水と答えるそうだ（私も水と考えた）。理由は、水がないと砂漠で生きていけないからだ。でもここ日本での正解はダイヤモンドだ。なぜなら厳密に言うと日本には砂漠がない。多くの人は砂漠に行かない。自分が砂漠にいかないのに頭の中で砂漠にいる状況を考えるのはおかしい。ありもしない事を想像し不必要な不安を生み出す。情報多寡の時代、心配事が多くあると幸せを実感し難くなる。周りに流されず、認識を新たにできれば、人生を幸せに生きる大きなヒントとなるのではないだろうか。

7月27日（金）テーマ：「建学の精神が語るもの」

前田 次郎（学院理事長）

前期最後の昼礼拝で皆さんに考えて欲しい事がある。新聞やニュースの報道では省庁や大企業が不正行為や改竄が判明し、嘘や怠慢から生じる混乱と無秩序が社会を覆っている。この深刻な事態の原因をどこに見ればよいのか？ 組織か？ 教育か？ 家庭か？ 私は、この社会を構成する一人ひとりの「心」を大切にする意識を持たなければ、この「心」という大切な財産の価値を確認しなければ我々は滅びてしまうように思う。「心」の復興は、才能や知恵、経験や学識とは関係がない。逆にその「心」を神に向け、神の声に聞き従う事で、自己中心ではなく互いの存在を尊重し合える歩み、互いに省み、配慮し、助け、喜び合う生き方に導かれるのではないだろうか。そんな自らの内面を見直す夏を過ごして欲しい。（文責：野間 光顕）